

第41回 国際福祉機器展 H.C.R. 2014 報告

1 オープニングセレモニー

第41回国際福祉機器展H.C.R. 2014は、多数の来場者や後援・協賛団体の関係者などがお集まりのなか、全国社会福協議会 斎藤十朗会長の開会宣言により会期3日間の幕を開けました。引き続き行われた「くす玉オープン」は、斎藤会長、H.C.R.海外コーディネーターのベン・アポロ・ラスマンセン氏〔欧州担当〕、トム・ポーチャディング氏〔北米担当〕、高井康行本会理事長などの参加により執り行われ、開場の運びとなりました。



○日時：10月1日(水) 9:50～
○場所：東2ホール前

2 15か国・1地域から584社・団体が出展

国内企業・団体の出展は530社・団体（うち、新規出展は86件）、海外からは14か国・1地域より54社・団体が出展し、出展ブースは昨年度よりも122小間増の1,915小間まで拡充しての開催となりました。

国名	社数	国名	社数
オーストラリア	1	メキシコ	1
カナダ	2	オランダ	1
中国	1	ノルウェー	1
デンマーク	6	スウェーデン	6
フランス	2	台湾	14
ドイツ	4	トルコ	1
日本	530	イギリス	4
韓国	1	アメリカ	9

総面積51,380㎡の会場に、20,000点を超える福祉機器、介護用品が総合展示されました。

3 15回目の出展を迎えられた企業・団体に感謝状を贈呈

今年もH.C.R.では、本展示会への出展が15回目を迎えられた企業・団体に対して感謝状を贈呈しました。展示会初日の10月1日(水)に海外1社、国内11社の計12社・団体を、オープニングセレモニーを行ったガレリア・東2ホール前のステージにお招きして贈呈式を行いました。

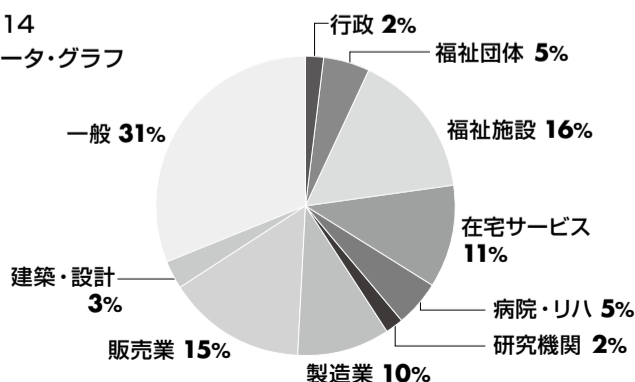
【15回出展感謝状贈呈企業】(海外1社 国内11社)

Etac AB (Sweden)	(株)スギヤス
アキレス(株)	(株)スワニー
(株)島製作所	トーエイライト(株)
住宅防火対策推進協議会	(株)ニッシン自動車工業
(株)シロクマ	ピーエス(株)
シンテックス(株)	(株)ムーンスター

※社名五十音順／アルファベット順

4 来場者数は今年も12万人を超え、127,651人に

H.C.R. 2014
来場者数データ・グラフ



第41回国際福祉機器展H.C.R. 2014の来場者数は、昨年度に引き続き12万人を超え、前年比6,607人増の、のべ127,651人となりました。

来場者の分類では、一般の方が31%と最も多く、続いて福祉施設の16%、販売業の15%、在宅サービスの11%という順となり、昨年度の来場者の内訳順と同じで、割合もほぼ同様という結果となりました。

5 出展製品

【製品別出展社数】

移動機器		45	福祉電話、FAX、携帯会話補助器	4	
1	手動車いす	51	46	視覚障害者用誘導システム	0
2	車いす関連用品	84	47	コミュニケーション関連ロボット	10
3	電動車いす	36	48	その他	17
4	電動三輪・四輪車	12	建築・住宅設備		
5	自転車	3	49	スロープ	24
6	介助車	12	50	手すり	32
7	歩行器・歩行補助車	49	51	エレベーター	0
8	杖	36	52	段差解消機	13
9	ストレッチャー等移動器具	10	53	階段昇降機	14
10	移乗補助機器	26	54	その他	17
11	床走行リフト	23	リハビリ・介護予防機器		
12	固定式・据置式リフト	19	55	歩行等訓練機器	20
13	介助・歩行補助ロボット	15	56	リハビリ用教材・機器	32
14	障害者用自動車運転装置	8	57	筋力トレーニング機器、身体機能訓練機器	37
15	車いす等用福祉車両	16	58	口腔ケア用品	18
16	入浴用特殊車両	2	義肢・装具		
17	福祉施設等業務用自動車・エコカー	0	59	義肢・装具	21
ベッド用品			日常生活用品		
18	ベッド	31	60	自助具	24
19	マットレス・床ずれ防止製品	59	61	障害者用スポーツ・レクリエーション	8
20	サイドテーブル	15	62	介護関連用品	43
21	介護用シーツ	13	63	その他	14
22	その他	20	介護等食品・調理器具		
入浴用品			64	食事用品・食器	22
23	浴槽	17	65	キッチン	4
24	入浴用チェア	27	66	調理器	4
25	滑り止め用品	16	67	高齢者・障害者向け食品	15
26	浴槽台	16	福祉施設・住宅環境設備・用品		
27	入浴用リフト	13	68	施設用床材・壁材	9
28	その他	11	69	自然エネルギー・省エネルギー技術	3
トイレ・おむつ用品			70	再資源・水浄化処理装置	0
29	ポータブルトイレ	19	71	洗濯機・乾燥機	10
30	便器・便座	13	72	いす・座位保持／立ち上がり補助用品	18
31	防臭剤・消毒剤	15	73	テーブル、家具、洗面台	19
32	トイレ関連用品	28	74	火災報知設備、自動消火設備	2
33	おむつ関連用品	23	75	防災・避難用品	12
34	自動排泄処理装置	7	76	自家発電・蓄電装置	1
衣類・着脱衣補助用品			77	介護従事者用衣類	11
35	衣類	25	78	その他	17
36	靴	12	感染症等予防用品		
37	帽子・保護帽・かつら	5	79	消毒器・脱臭器・空気清浄器・感染症等予防用品	16
38	着脱衣補助具	4	80	その他	19
コミュニケーション機器			在宅・施設サービス経営情報システム		
39	補聴器	4	81	福祉事業関係コンピュータシステム	41
40	緊急通報・見守り装置	32	出版・福祉機器情報		
41	障害者用ワープロ・コンピュータ、点字プリンタ OA入力・操作補助具 障害者用ソフトウェア	12	82	福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連WEBサイト	27
42	障害者用AV機器	2			
43	拡大読書器	3			
44	活字文書読上げ装置	4			

6 日欧の認知症政策をテーマとした国際シンポジウムは満席に

H.C.R.では、諸外国とわが国に共通する福祉・介護分野の課題をテーマとし、海外から専門家を招いて当該国の取り組み事例や課題を紹介する国際シンポジウムを、国際福祉機器展と併せて開催しています。

H.C.R. 2014では、近年、高齢社会対策にかかわる重要施策について国家戦略を策定し、国民的な課題として社会全体で課題を共有しながら取り組みをすすめていく動きが活発になり、とりわけ、認知症についてはヨーロッパ各国で国家戦略が策定され、また、2013年12月には英国で「G8認知症サミット」が開催されるなど、世界的な共通課題となっている一方で、わが国においても、2013年から2017年までの「認知症施策5か年計画（オレンジプラン）」が策定されるなど、取り組みの加速化が図られ

ていることを踏まえて、シンポジウムを企画しました。

そこで、こうしたテーマについて、英国から専門の講師を招き、EU各国のなかから認知症施策への先進的な取り組み経験を有する国々の特徴、現状や課題などを解説いただくとともに、日本の取り組みや課題と比較・対象をしながら学ぶことによって、わが国の認知症施策と支援活動の充実に資することをめざしました。参加者は会場の定員に達し、301名に上りました。

H.C.R. 2014国際シンポジウム

10月2日(木) 13:00～16:00

「ヨーロッパ諸国の認知症政策の現状を踏まえ、課題に挑む
～認知症への理解拡大と日本の支援活動の充実のために」

○講師：【ヨーロッパ諸国の状況報告】

ジョージ・W・リースン氏

オックスフォード大学高齢者研究所副所長、同大学ケ
ログカレッジ上級研究員、コペンハーゲン大学客
員講師

【日本の状況報告】

服部 安子氏

社会福祉法人 浴風会 浴風会ケアスクール校長



○チューター：近藤 純五郎氏

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、
元厚生労働事務次官

○会場：会議棟6F

605～608会議室



7 H.C.R.セミナー

H.C.R.では、介護・福祉機器の展示と併せて、来場いただいた福祉サービスの利用者やそのご家族、保健・福祉・介護の関係者などに対して、関連する制度の動向や現在の課題、福祉サービスの質や経営をめぐる最新の情報などを提供するための、H.C.R.セミナーを開催しました。

いずれのセミナーにも関心が高く、一般来場者をはじめ、介護支援専門員、社会福祉施設役職員、ホームヘルパー、社協役職員など専門職も含めたのべ3,681人が参加し、それぞれのテーマに対する理解を深めました。

(1) 一般、福祉利用者・家族向け

①高齢者の住まいについて～基礎知識と選び方

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	10月1日(水) 11:00～12:30
講師	灰藤 誠氏 公益社団法人 全国有料老人ホーム協会 理事・事務局長

②介護で腰痛にならないための基本技術を学ぶ

～ボディメカニクスの理解と活用

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	10月2日(木) 10:30～12:00
講師	青柳 佳子氏 目白大学短期大学部 生活科学科 准教授

③はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー

(会場：東6ホール 特設会場C)

「基本動作編」「自立支援編」「住宅改修編」の3編をさらに以下の10のテーマに分類して、3日間にわたりセミナーを開催しました。

日程	時間	テーマ	講師
10月1日(水)	11:00～12:00	トイレ・排泄用品	NPO法人 日本コンチネンズ協会 牧野 美奈子氏
	13:00～14:00	住宅改修	首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 准教授 橋本 美芽氏
	15:00～16:00	入浴機器	高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士 加島 守氏
10月2日(木)	11:00～12:00	ベッド	福祉技術研究所(株) 代表取締役 市川 洌氏
	12:30～13:30	リフト等移乗用品	福祉技術研究所(株) 代表取締役 市川 洌氏
	14:00～15:00	杖・歩行器等補助用品	高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士 加島 守氏
	15:30～16:30	車いす	公益財団法人 武蔵野市福祉公社 作業療法士 堀家 京子氏

10月3日(金)	11:00～12:00	コミュニケーション機器	東京大学 先端科学技術研究センター 人間支援工学分野 教授 中邑 賢龍氏
	13:00～14:00	福祉車両	国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 自立訓練部機能訓練課 自動車訓練室長 熊倉 良雄氏 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部 副理学療法士長 岩崎 洋氏
	15:00～16:00	自助具	ヒューマン代表 岡田 英志氏

④高齢者むけの手軽な日々の食事

～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ

高齢者が健康で豊かな生活を送るためには、適切な食生活も重要なポイントです。

普段の食生活において健康を意識するという方の割合が、高齢者ほど高いという調査報告もみられる一方で、三度の食事作りがおっくう、食材が残ってもったいない、作っても張り合いがない等の理由で、食事の回数が少ない、菓子で済ませるといった食事を疎かにする方も少なくありません。

近年、高齢者の栄養管理の重要性が様々なところで耳にします。特に寝たきりにならないためのポイントとして、適切な栄養量をバランスよく食事から取り入れること、かつ口から食べるという行為の継続が大切とされています。そのためにも、日々の食事作りの負担を軽くすることが必要であり、スーパーやコンビニの総菜や市販弁当、宅配弁当、配食サービスは簡便な食事のための強い味方です。このような既製品を上手に活用し、簡単に、豊かに、かつ、栄養のバランスがとれる毎日の食事の作り方を、実演を交えて紹介しました。

日時	10月1日(水)～3日(金)の各13:00～14:00の時間帯
講師	今 寿賀子氏 虎の門病院 栄養部 部長 押田 京子氏 虎の門病院 栄養部 副部長

(2) 福祉職向け

①福祉施設の実践事例発表

～役立つ活かせる実践研究、工夫とアイデア

会場	会議棟6F 605～608会議室 (A、B会場分割講義)
日時	10月1日(水) 14:00～16:30
発表事例	A会場 ①通所介護における介護予防の検証 ②褥瘡0(ゼロ) 26年間の実践～実現する為の3つの指標 ③ボールで楽しむウォーキング講座の実践と成果 ④認知症ケア～バリエーション療法を通して行動の原点を探る～ ⑤ハートピア堺式自立支援と認知症ケア、そして選ばれるデイサービス 司会進行：湯川 智美氏 社会福祉法人 六親会 常務理事
	B会場 ①肢体不自由児の側弯の予防・改善～特別支援学校における取り組み ②社会貢献を考える エーデル土山のCSR活動 ③地域の方々と施設利用者の日々の交流を創出するテラス活動 ④福祉機器を使って・さらば腰痛 ⑤やりがいのある職場を目指し 司会進行：久木元 司氏 社会福祉法人 常盤会 理事長

②福祉施設における感染症の知識と対応

～知っておきたい感染症対策のポイント

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	10月3日(金) 11:00～12:30
講師	小坂 健氏 東北大学大学院 歯学研究科 副研究科長

③社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用

～高齢者の生活の質の向上から野生動物の皮革の利用まで

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	10月3日(金) 13:30～15:30
プログラム	基調講演 社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用 炭谷 茂氏 社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長 社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会 委員長 一般財団法人 地球・人間環境フォーラム 理事長
	事例発表 ①老人施設入所者の生活の質を高める野菜栽培 永井 伸一氏 獨協医科大学 名誉教授 ②野生動物の皮革を有効活用することで広がる障害者の就労機会 田中 正幸氏 岡山県セルブセンター 事務局長 ③MATAGIプロジェクトの目指す障害者の働く場づくり 山口 明宏氏 皮なめしの老舗・山口産業 専務取締役、 MATAGIプロジェクト 事務局長
司会・進行	社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会

8 H.C.R.特別企画 (常設展示・相談・デモンストレーション)

①障害児のための「子ども広場」(東3ホール 特設会場A)

子どもたちを伴って来場された方の移動の負担を少しでも軽減するため、「子ども広場」を会場内に設置して該当する製品を総合展示するとともに、福祉機器の利用や療育に関する相談コーナーや、保育士が常駐する「ひとやすみコーナー」などを設けました。

また、新企画「家のなかにはキケンがいっぱい！発達障害のある子どもの安全対策ひと工夫コーナー」や「子ども広場で広げよう！子どもの車いすトレーニング編」なども設けました。

a. 福祉機器展示コーナー

会期中3日間にわたり、親子が参加して試せる子ども向けの福祉機器の常設総合展示と製品説明を行いました。

いす・カーシート、食器用具・食器/衣類・靴、車いす、バギー・歩行器、学習機器/コミュニケーション機器など

b. 相談コーナー (無料、療育相談と福祉機器相談)

3日間とも、相談員2名を配置し、11:00～12:00、13:00～14:30、15:00～16:00の3回、無料で相談に応じました。

(協力：横浜市総合リハビリテーションセンター)

c. ひとやすみコーナー

保育士が常駐し、広場のおもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者のみなさんと子育てについてお話しする場として設けました。

(協力：東京都社協保育士会)

d. 家のなかにはキケンがいっぱい！

発達障害のある子どもの安全対策ひと工夫コーナー

日程：10月1日(水)～3日(金)の各日13:00～15:00(専門職による相談)

(協力：横浜市総合リハビリテーションセンター

：一級建築士・臨床心理士・保育士ほか)

e. 子ども広場で広げよう!! 子どもの車いすトレーニング編

日程：10月3日(金) 参加定員：15名

プログラム：①12:30～13:00 車いす試乗・調整

②13:00～14:45 車いすトレーニング

③14:45～15:15 商品紹介

(協力：横浜市総合リハビリテーションセンター、
一般社団法人日本リハビリテーション工学協会)



②ふくしの相談コーナー(東3ホール 特設会場A)

作業療法士や技師などの専門家が来場者の福祉機器、自助具に関わる相談に無料で応じました。

(協力：日本作業療法士協会、大阪府肢体不自由児協会大肢協ボランティアグループ自助具の部屋)

③高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー

～旅を楽しむ「10のコツ！」と便利なグッズ展

(東3ホール 特設会場A)

高齢者や障害のある方が楽しく旅をするために役立つ「10のコツ！」とコツに関係する約60点のグッズを集め、「旅に関するよかったこと」調査や旅の達人に聞いたコツなどをもとに、高齢者や障害のある人たちが旅を楽しむヒントや工夫を10か条にまとめ、出展社の製品から選んだ「旅に役立つグッズ」を準備、移動、会話、食事や温泉など旅のシーンごとに展示しました。

(企画・監修：共用品推進機構、運営協力：NTTクラリティ、高齢社)

④福祉機器開発最前線(東3ホール 特設会場A)

企業・研究機関の研究開発、試作状況などの最新の情報提供や紹介の場である本コーナーでは、今年は、経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業の対象製品を10点、厚生労働省の障害者自立支援機器等開発促進事業の対象製品を2点、合計12点の展示及びデモンストレーションを行いました。



字幕付き電話(字幕電話)	株式会社アイセック・ジャパン
もうひとつの自分の身体 分身ロボット"OriHime"	株式会社オリイ研究所
楽チン見守り「ラクミ〜マ」	株式会社スーパーリージョナル
レーダーライト	株式会社CQ-Sネット
介護用HAL [®] (腰補助タイプ)	CYBERDYNE株式会社
ロボット介護機器評価ツール	ロボット介護機器PJ基準策定・評価事業 コンソーシアム (代表：独立行政法人 産業技術総合研究所)
カメラ組み込み型画像認識システムを用いた見守りプラットフォーム	株式会社レイトロン
みまもり支援システム	株式会社エイビス
電動歩行アシストカート	RTワークス株式会社
電動ロータ「バンビ」	株式会社今仙技術研究所
移乗介助用サポートロボット	富士機械製造株式会社
①(居室設置型移動式水洗便器) ベッドサイド水洗トイレ	TOTO株式会社
②(浴槽設置型入浴支援機器) バスリフト	

⑤アルテック講座2014～身の回りにあるテクノロジー(アルテック)で

創る豊かで楽しい生活(東6ホール 特設会場B)

多くの人の身の回りにあるテクノロジー(アルテック)を用いることで、障害がある人の生活が大きく変わります。たとえば、印刷物を読めない人でも電子書籍や電子新聞であれば簡単に読むことができます。音声が使えないためにコミュニケーションに不自由を抱える人もスマホでチャットを楽しみ、アプリを入れれば音声で会話することも可能です。そのほか、鉛筆を持っていないなどの理由でメモをとれない人はICレコーダやデジカメを上手く活用すれば記録がとれるなど可能性は大きく広がっています。

この講座では、誰もが日常活用しているスマホ、タブレット、パソコン、ICレコーダ、デジカメなどのICT(情報通信技術)製品を、障害のある人の生活や学習支援に活かすアイデアとともに紹介しました。

【講座テーマ】

10月1日(水)	①スマホやタブレットをコミュニケーションエイドに変える ～アルテックを用いた言語障害のある人の生活支援 ②身の回りにあるテクノロジー(アルテック)が支援技術に変わる ～支援技術を使いこなすための障害理解 ③アルテックを読み書きなど学びのツールに変える ～アルテックを用いた発達障害や認知障害のある人の生活支援
10月2日(水)	④スマホやタブレットを視覚障害の福祉機器に変えるアプリ ～アルテックを用いた視覚障害のある人の生活支援 ⑤スマホやタブレットのアクセシビリティ ～肢体不自由の人がスマホやタブレットを使いこなす ⑥Windowsパソコンのアクセシビリティと応用 ～アルテックを用いた障害のある人の生活支援
10月3日(水)	⑦障害者差別解消法とアルテックの意味～合理的配慮の1つとしてのアルテック ⑧障害者雇用とアルテック～障害者雇用現場でのアルテック活用の実例 ⑨ゲーム用カメラを生活支援ツールに変える ～重度肢体不自由や重複障害のある人の生活支援

⑥被災地応援コーナー(東4ホール内)

昨年度に引き続き、東日本大震災で特に被害の大きかった東北3県(岩手県、宮城県、福島県)のセルプ(障害者授産施設)の製品を販売するコーナーを設けました。